

## 第3学年 算数科学習指導案

日時 平成30年 10月5日(金) 第5校時  
児童 3年2組 男子9名 女子9名 計18名  
指導者 \*\*\*\*

### 1 単元名 かけ算のしかたを考えよう

### 2 単元について

#### (1) 児童について

—省略—

#### (2) 指導にあたって

本単元では、乗法の計算について理解し、計算技能を高めていくことがねらいである。乗法の筆算は本単元で初めて学習することになるので、何十×1位数、何百×1位数などの計算は、10や100を単位として考えれば乗法九九を使えること、2位数～3位数×1位数の計算も、被乗数を位ごとに分ければ乗法九九を使えることに気づかせながら学習を進めていく。また、部分積を省略しない筆算と関連づけながら、一般的な筆算形式の理解を深めていく。

「話す・聞く、学び合う」活動については、ペア学習で友達の考えと自分の考えを比べて、違いや共通点を考えるという視点を与え、全体学びへつなげていく。また、相手にわかりやすく伝えるために、説明の順序を意識させたい。

本時の指導では、十の位の部分積が2桁、部分積がみな2桁の筆算を扱う。繰り上がりについては前時まで学習しているが、どこの位に繰り上げるのか迷うことが予想される。そこで、全体学びで部分積を省略しない筆算と一般的な筆算を照らし合わせ、考えるポイントが繰り上がりで位取りであることを焦点化し、誤答を提示することで十の位や百の位に繰り上げた数をたし忘れないように気をつけさせたい。

### 3 単元の目標

◎2位数や3位数に1位数をかける乗法の計算について理解し、その計算が確実にできるようになるとともに、それを適切に用いる能力を伸ばす。

[関心・意欲・態度]

○2～3位数×1位数の筆算の仕方について、乗法九九などの基本的な計算を基にできることよさに気づき、学習に生かそうとする。

[数学的な考え方]

○2～3位数×1位数の筆算について、数の構成や既習の乗法計算を基に考え、表現したりまとめたりすることができる。

[技能]

○2～3位数×1位数の乗法の筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。

[知識・理解]

○2～3位数×1位数の乗法の筆算について理解する。

○乗法の結合法則を理解する。

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標

2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、および部分積がみな2桁）の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。

##### (2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

評価規準	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手立て
【技】 2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、および部分積がみな2桁）の乗法の筆算が確実にできる。	2位数×1位数の筆算の仕方について理解し、その計算ができる。	一の位の計算を十の位に繰り上げるときの補助数字を確認し、十の位の計算と合わせることに気づかせる。

##### (3) 本時の展開（6 / 15時間） 研究テーマとの関連=☆

段階	学習活動	指導上の手立て（評価）
つかむ (5分)	<p>1 問題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math display="block">\begin{array}{r} 42 \\ \times 3 \\ \hline \end{array}</math> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 3 \\ \hline \end{array}</math> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の筆算との違いを考える。</li> <li>○答えが3けたになる。</li> <li>○十の位と百の位に繰り上がる。</li> </ul> <p>2 課題設定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           筆算のしかたを考えよう。         </div> <p>3 見通し 〈やり方〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○位ごとに計算する。</li> <li>○繰り上げに気をつける。</li> </ul> <p>〈答えの予想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>40 \times 3 = 120</math> くらい</li> <li>・ <math>60 \times 3 = 180</math> くらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の筆算の仕方を振り返り、本時の筆算との違いに着目させる。</li> <li>前時の筆算との違いをまとめて板書し、やり方の見通しを持たせる。</li> <li>被乗数を何十と見て、答えの予想を立てさせる。</li> </ul>
考える (25分)	<p>4 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>42 \times 3</math> の筆算に取り組む。</li> <li>・ 筆算のしかたを発表する。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 20px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 42 \\ \times 3 \\ \hline 12 \\ 6 \\ \hline 120 \\ 6 \\ \hline 126 \end{array}</math> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「三二が六」</li> <li>○「三四12」1は百の位に繰り上げる。</li> <li>・ 部分積を省略しない形式を見て、百の位に繰り上げることを確かめる。</li> </ul> </div> </div> <p>・ 筆算のしかたを唱える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず1人で計算させる。</li> <li>児童の考えを板書していく。</li> <li>「三四12」の1を百の位に書くことをおさえる。</li> <li>☆部分積を省略しない形式と一般的な形式を照らし合わせながら、百の位に繰り上げることを確認させる。</li> </ul>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">考える (25分)</p>	<p>4 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>58 \times 3</math> を自力で解く。</li> </ul> <p>5 学び合い</p> <p>(1) ペア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>58 \times 3</math> の筆算のしかたを説明し合う。</li> </ul> <p>(2) 全体学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筆算のしかたを発表し、話し合う。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 10px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 3 \\ \hline 174 \end{array}</math> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「三八二四」 2を十の位に繰り上げる。</li> <li>○ 「三五一五」 15に繰り上げた2をたして17</li> <li>○ 答えは174になる。</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;"> <div style="margin-right: 10px;"> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 3 \\ \hline 24 \\ \hline 150 \\ \hline 174 \end{array}</math> </div> <div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部分積を省略しない形式を見て、筆算の方法を確かめる。</li> </ul> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誤答例を提示し、話し合う。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(例1)</p> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 3 \\ \hline 1524 \end{array}</math> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(例2)</p> <math display="block">\begin{array}{r} 58 \\ \times 3 \\ \hline 154 \end{array}</math> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「三五一五」の1を千の位に書いている。</li> <li>(例1)</li> <li>○ 繰り上がりの2を足していない(例1、例2)</li> <li>・ 筆算の仕方を唱える。</li> </ul> <p>6 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><math>42 \times 3</math> や <math>58 \times 3</math> のようなかけ算の筆算は、十の位、百の位へのくり上がりに気をつけて筆算する。</p> </div>	<p>☆ ノートを見せ、指で指したり言葉を付け加えたりしながら順序を意識しながら説明させる。</p> <p>☆ 自力解決が途中で、できたところまでを説明させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の考えを板書していく。</li> <li>・ 十の位と百の位に繰り上げることと、児童の発表を関連させながら板書する。</li> </ul> <p>☆ 部分積を省略しない形式を提示し、一般的な筆算形式と照らし合わせながら繰り上がりや位取りを確認させる。</p> <p>☆ 誤答を提示することで、十の位や百の位へ繰り上げた数をたし忘れないように気をつけさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の繰り上げのある筆算を想起させ、繰り上げの補助数字を小さく書き足すことを確認させる。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">生かす (15分)</p>	<p>7 評価問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>\triangle 5 \textcircled{1} 83 \times 2</math>、<math>\triangle 6 \textcircled{1} 79 \times 3</math> に取り組む。</li> <li>・ 終わったら次の問題、<math>\triangle 7</math> に取り組む。</li> </ul> <p>8 振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題はプリントを用意する。</li> <li>・ <math>\triangle 5 \textcircled{1}</math>、<math>\triangle 6 \textcircled{1}</math> は時間を決めて全員で答え合わせをし、その後は各自で取り組む。</li> <li>・ 机間指導し丸付けをする。</li> <li>・ プリントの裏に予備の問題を用意する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>《評価》【技】 2位数×1位数（十の位の数との部分積が2桁、および部分積がみな2桁）の乗法の筆算が確実にできる。 (観察・プリント)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今日の学習でわかったことやできるようになったこと、気をつけたことという視点で振り返りをさせる。</li> </ul>

